

日本生殖看護学会ニュースレター

No.24

Japanese Society of Fertility Nursing (JSFN)

... 目 次 ...

・理事長からのご挨拶	1
・新理事の紹介	2
・平成21年度事業計画及び予算案	3
・第7回日本生殖看護学会学術集会報告	4
・各地区で開催する勉強会の支援	4
・第6回生殖看護実践セミナー報告	5
・理事会報告	5
・平成21年度日本生殖看護学会総会報告	6
・勉強会のご案内	7
・もし不妊看護の現場で行き詰まったら	8
・事務局からのお知らせ	8

理事長からのご挨拶

理事長 森 明子



日本生殖看護学会は2回目の理事・監事選挙を経て、第3期を迎えました。小規模ながらも健全に運営し、堅実な活動を重ねられたのもひとえに会員の皆様からのご支援の賜物と感謝申し上げます。

生殖補助医療は日進月歩、新薬や新技術、新しい治療法がとどまることなく開発されていきます。現場は日常の延長線上で、どんどん変わっていきます。一方、生殖補助医療が抱える従来から指摘されてきた倫理的法的問題の多くは議論も解決もなされることなく横たわっており、事実が先行し問題が潜在・顕在化するという事態がみられます。

そして、最近の経済不況、結婚の高年齢化は、カップルの心身・生活にさまざまな影響を与えているものと思われまふ。ナースは治療に目を向けるだけでなく、目の前にいる患者が、社会のなかで生活し、医学的知識や物の見方、考え方、価値観、感じ方において個々に違う存在であることを常に意識しケアを創造していかなければなりません。それは時にはシステムの変革も必要になることを意味します。そのためには知識、感性、思慮深さ、自他の尊重、共感の能力を身につけ、医療チームの一員として仲間から、患者から、信頼される職業人になることがまず何よりも大切です。

本学会の目的は、不妊看護の実践家・教育者・研究者の交流を促進し、学術的發展に寄与することにより、個人及び家族の生涯にわたる健康と福祉に貢献することにあります。誰のための研究か、誰のための教育か、そして誰のための実践なのか、目的を見失わないように歩みたいものです。また、交流し学術的發展に寄与するのは会員ひとりひとりによるものです。そこで、他の人々から得ることばかりを望んでいたら、それは専門職業人とはいえません。受身に甘んずるのではなく、自ら貢献するよう努めてください。学会がこんな場であってほしい、こんなことがしてほしい、そんな思いやアイデアがあるときは、ぜひ、積極的に動き働きかけてください。

私自身も会員の一人として、本会の目的をあらためて振り返るとともに、会員に仕える立場として、今一度重く受け止め、総会でご承認いただきました、本年度の活動を含むこれから3年間の活動に取り組んでいきたいと思ひます。

新理事の紹介



総務（看保連対応）

清水清美氏（国際医療福祉大学）

理事会の運営・報告、会員数の管理、学会ホームページの充実など、皆様により活用しやすく、また親しみがもてるような学会をめざして努力してゆきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひします。



実践開発委員

橋村富子氏（滋賀医科大学医学部附属病院）

この度、実践開発委員として、臨床における対応困難な問題等について解決する為のお手伝いをさせて頂いたことになりました。各地域の幹事の皆様と共に、現場での活動が充実するように努めてまいりたいと思ひます。



教育推進委員

森 恵美氏（千葉大学）

教育推進委員を引き続き務めます。生殖医療は日進月歩であり、不妊症患者のおかれた状況も多様です。そのような変化や多様性に対応した医療や看護について学ぶ場を皆様とともに企画していきたいと思ひます。



教育推進委員

阿部正子氏（筑波大学）

私が生殖看護に携わり始めて約10年が経ちました。生殖医療の進化とともに、当事者や医療従事者の様々な思いに触れる中で、生殖看護の発展の必要性を強く感じております。どうぞよろしくお願ひいたします。



広報委員

野澤美江子氏（兵庫県立大学）

広報委員を引き続き務めさせていただきます。皆様楽しんでいただけるニュースレターを目指して奮闘してきましたが、いかがでしょうか？感想やご意見をぜひお聞かせ下さい。今期も会員増員を目指し頑張ります。



広報委員

矢野恵子氏（中部大学）

今回、新理事として参加させていただくことになりました矢野恵子です。現在、大阪府の不妊相談など、生殖看護の実践にむけて勉強中です。まだまだいたらぬ身ではありますが、皆様どうぞよろしくお願ひいたします。



編集委員、副理事長

村本淳子氏（三重県立看護大学）

不妊治療が進んでいく中で、対象者をホリスティックにみていく視点をつねに忘れないようこれからも努力していきたいと思ひます。今期も編集委員を担当させていただきます。学会発展のために多くの論文投稿をお持ちしております。



将来検討委員

長岡由紀子氏（茨城県立医療大学）

引き続き担当理事を務めさせて頂くことになりました。研究活動の活性化や情報提供など、会員の皆さまのお役に立てるような委員会活動を目指してまいりますので、どうぞよろしくお願ひ致します。



会計

上澤悦子氏（北里大学）

新政権のマニフェストには、不妊治療の情報提供、相談体制の強化の文言が入り、本学会が果たすべき役割は、大変重要なものとなりました。生殖看護の確立と学会発展のため一役を果たしていきたいと存じます。



監査

遠藤俊子氏（京都福大学）

3期目になります。監事を引き受けさせていただきました。今まで理事会も片道支払いが、ようやくと往復支払いをできる会員数になりましたが、2年で底をついてしまいます。会員に有益な学会をさらに目指し、会員獲得をしましょう！周りにいる看護職に一声かけてくださると有難いです。



監査

岸田佐智氏（徳島大学）

監査の役割を引き続きさせていただきます。第7回の学術集事が終わり、学会も少しずつ成長し、人へのやさしさを大切にす学会であると実感しています。これからも微力ながら学会の発展に貢献できるよう努力していきたいと思ひます。

平成21年度事業計画及び予算案

1. 常任委員会

- ◆総務（事務局）：個人情報保護法に基づいた会員管理とHPの運営・管理、関連団体・機関への会議出席や学会としての意見提出の実施と拡大
- ◆実践開発委員会：ホームページ上での学会員における看護上の相談対応、相談活動のPR、不妊症看護認定看護師の認定後の継続教育を支援していく活動
- ◆教育推進委員会：セミナー・勉強会の開催
- ◆広報委員会：ニュースレターの企画・編集及び発行（今年度より年3回発行）、関連学会などでPR活動（学会リーフレット配布）
- ◆編集委員会：投稿原稿の受付、査読の依頼、採否決定。日本生殖看護学会誌第7巻第1号は、第7回学術集会の講演等寄稿、学会員の研究論文等を掲載。投稿原稿受付は平成21年11月31日必着、平成22年6月1日発行予定
- ◆将来検討委員会：国内外の情報収集と発信、研究助成関連の運営・管理（今年度より研究助成額は1件あたり10万円に増額）

2. 特別委員会

- ◇学会発展構想ワーキンググループ：バランスドスコアカードを見直し、これまでの活動を踏まえ維持しつつ新たなアイデアを盛り込む
- ◇看保連対応ワーキンググループ：昨年同様、看保連の総会・看護技術評価委員会に出席。学会内部の活動としては、学会として取り組む診療報酬に関連する看護技術について検討を本年も継続

平成21年度収支予算案

一般会計

（平成21年9月1日から平成22年8月31日まで）

収入の部

（単位：円）

大科目	小科目	予算額	備考
会費収入	年会費	1,620,000	270名×6,000円
繰越金	前年度繰越金	1,256,235	
収入合計	収入合計 (A)	2,876,235	

支出の部

科目	小科目	予算額	備考
会議費		[635,000]	
	理事会会議費	600,000	理事交通費全額支給
	総会費	35,000	
事業費		[1,160,000]	
	広報委員会	400,000	
	教育推進委員会	100,000	
	実践開発委員会	50,000	
	編集委員会	300,000	
	将来検討委員会	210,000	
	学術集会・講演会補助費	100,000	
事務費		[410,000]	
	人件費	300,000	アルバイト (PC入力・HP管理)
	通信・送金費	40,000	
	消耗品・雑費	70,000	
団体登録料		[110,000]	
	日本看護系学会協議会	80,000	
	看保連	30,000	会員300~500名にて1万円加算
予備費等		561,235	
支出合計 (B)		2,876,235	

特別会計：研究助成金積立金

（単位：円）

小科目	収入	支出	残額	備考
	積み立て額	助成額		
22年度助成	200,000	200,000	0	一般会計より
前年度までの積立金	150,172		150,172	
収入合計 (A)	350,172	0		

第7回日本生殖看護学会学術集会報告

—文化の視点から生殖看護を考える—

第7回日本生殖看護学会学術集会長 村本 淳子

9月13日に第7回日本生殖看護学会学術集会を三重の地で開催いたしました。北は北海道、南は熊本から、全国で生殖看護に携わっておられる163名の方にお集まりいただきました。本州でありながら、交通の便もいささか不便なこの三重の地に来ていただいたことを感謝申し上げます。

さて、今年度は、三重県の地域的特性である「ルーラル看護」と私たちの生活基盤をつくっている「文化」を学会企画のコンセプトといたしました。生殖医療が発展する中で、私たち看護職にはさらなる知識や技術の修得をはじめ、他職種との連携など高い専門的役割が求められるようになりました。しかし、いつでもその中心には、ある土地で生まれ育ち、その土地の文化に根ざした価値観や生活習慣をもって暮らす対象が置かれるべきです。私たちは専門的立場として驕ることなく、専門職としての価値観と対象の価値観に折り合いをつけながら、その人に誠実に寄り添うことが求められています。講演やシンポジウムをとおして、皆さんといっしょに、文化がより根強く残る「ルーラル地域」の文化を中心に理解をすすめる中で、地域の価値観は少しずつ変化を遂げていること、ルーラル地域には広く様々な知識と技術をもつジェネラリストが必要であるが、その土地の文化を深く理解したスペシャリストでなければならないこと、またより生殖看護に長けているスペシャリストがそのジェネラリストを支援する必要性がみえてまいりました。また、文化はルーラル地域にのみ存在するものではありません。すべての地域の看護職が対象のもつ文化的価値観や生活習慣を理解し、文化を理解した看護実践を行うこと、そして自分自身の看護職としての価値観を見つめなおすことが生殖看護の原点であることを再認識いたしました。

また、1日のタイトなスケジュールの中、参加者の方々に少しでも三重県の文化に触れていただけるよう、伊勢型紙のしおりをはじめ、地産地消のお弁当やお菓子、文化に関する映像などを準備させていただきました。プログラム内容から会場設営まで、「文化」の視点で、一本筋をとおした企画とし、参加者の皆さまをお迎えいたしました。行き届かない点多々あったかと思いますが、参加者の皆さまの心に何らか残るものであれば幸いです。

学会も7回目となりましたが、今年度は一般演題発表も20題を超えました。実践者、研究者ともに、より看護実践につながる研究を積み重ね、また来年、徳島の地でお会いできればと思います。



各地区で開催する勉強会の支援

教育推進委員会では、会員が主催する各地区の勉強会を支援したいと考えております。勉強会を企画されている代表者の方は、開催日時、開催場所、テーマあるいは内容、連絡先（住所、電話番号、FAX番号、メールアドレス）等を右の連絡先までご連絡ください。よろしく申し上げます。

教育推進委員会担当理事 森 恵美

教育推進委員会担当理事

森 恵美 mori@faculty.chiba-u.jp

千葉大学看護学部 母性看護学教育研究分野

〒260-8672 千葉市中央区亥鼻1-8-1

TEL : 043-226-2410, FAX : 043-226-2414

第6回生殖看護実践セミナー報告

8月9日、「生殖医療における倫理を考える」のテーマで、第6回生殖看護実践セミナーが開催された。猛暑の中、38名（そのうち、一般の方を含め非会員19名）の参加があり、活発な意見交換が行われた。

はじめに、齋藤有紀子氏（生命倫理学・法哲学）より、「倫理問題とは何か」、「法律問題とは何か」、「生殖をめぐる技術・倫理・法における歴史的な推移と現状、問題点」等、最新の知見をもとに講演をしていただいた。さらに、2008年に起きた、体外受精における受精卵取り違い事件をもとに、「医療現場における実施手順のあり方」、「情報提供のあり方（内容・時期・対象者）」、「守るべき対象は誰か（誰の人権・権利を守るのか）」、「配慮されるべき問題は何か」等をディスカッションした。

ディスカッションでは、他人の受精卵を移植された可能性を医師から説明された夫婦が人工妊娠中絶を意思決定するまでの心理面（自分の子どもではない可能性のある子どもを妊娠している精神的辛さ、自分の子どもの可能性があるにも関わらず中絶することへの迷いや悲嘆等）やその夫婦の権利、自分達の受精卵を他人に移植された可能性のある夫婦の権利（人工妊娠中絶をする以前に説明を受け、出産を望めば代理出産を依頼できたのか等）、胎児の生きる権利、事故についての医師の説明のあり方、意思決定における看護職者やカウンセラーのかかわり、事故予防のマニュアル作り等が話し合われた。

出席者のアンケートより

- ・生殖医療において倫理は非常に重要だが、学ぶ機会はほとんどないため、基本的なことから最新の研究や法律の動向、倫理のあり方までを学ぶ良い機会となった。
 - ・ヒトクローン胚、ヒトES細胞、IPS細胞等について新たな知識を得ることができた。
 - ・色々な立場の人の意見を聞いて視野が広がり、様々な考えや価値観を尊重していく必要性を痛感した。
 - ・報道を聞いただけの一方的な見方ではなく、色々な視点で考えることができた。事件から学ぶ大切さに気付いた。倫理について皆で向き合う大切さや、看護職として何が出来るかを考える機会となった。
 - ・講師の齋藤先生のコメントが刺激的だった。大変勉強になった。
 - ・生殖医療にかかわる看護師として、守るべきもの、チーム医療の必要性、倫理等、多くのことを考えさせられた。今後、チームとして患者さんをフォローしたい。臨床でもこうしたディスカッションをしようと思う。
- 報告：坂上明子（埼玉県立大学保健医療福祉学部）

理事会報告

第9回理事会報告（書面） 日 時：平成21年7月10日（金）

- 【審議事項】 1. 入会審査：6名の新規入会を承認。 2. 第3期理事・監事の選挙結果および会計報告を承認。
3. 第7回学術集会における新型インフルエンザ・風水害等への対応。

第10回理事会報告（書面） 日 時：平成21年7月18日（土）

- 【審議事項】 1. 入会審査：2名の新規入会を承認。
2. NPO法人Fine「Fine祭り そこが知りたい!不妊」後援（名義）を承諾。

第11回理事会報告（書面） 日 時：平成21年8月12日（水）

- 【審議事項】 1. 入会審査：6名の新規入会を承認。

第12回理事会報告 日 時：平成21年8月28日（金）18:00～20:40 場 所：聖路加看護大学2号館4階ミーティングルーム
出席理事：森明、有森、遠藤、小川、岸田、塩沢、清水、福田、村本

【報告事項】 1. 各委員会報告

- 1) 実践開発委員会：相談メールなし。実践開発委員会幹事の推薦。
- 2) 教育推進委員会：第6回生殖看護実践セミナーを平成21年8月9日（日）に埼玉県立大学にて開催。参加者38名。
- 3) 看保連対応 WG：本学会から提出中の医療技術評価提案書「在宅自己注射指導管理料」について、8月27日（木）に厚生省保険局からヒアリング。
- 4) 平成20年度会計報告

- 【審議事項】 1. 平成21年度日本生殖看護学会 総会要綱（案）。 2. 次回（第8回）の学術集会について。
3. 次々回（第9回）の学術集会長について。

第13回理事会報告 日 時：平成21年9月12日（土）17:00～17:35 場 所：三重県立看護大学
出席理事：森明、有森、遠藤、小川、岸田、塩沢、清水、長岡、福田、村本、森

- 【審議事項】 1. 入会審査：3名の新規入会を承認。 2. 研究助成内規の改正案。
3. 平成21年度日本生殖看護学会 総会要綱（案）。

平成21年度 日本生殖看護学会 総会報告

日 時：平成21年9月13日(日)12:45~13:20
 場 所：三重県立看護大学 大講義室
 出 席：会場出席者27名、委任状102通
 (本学会則第16条により総会成立)
 総合司会：森理事長 議 長：村本副理事長

<報告事項>

1. 理事会報告 (森理事長)

平成20年度に開催された13回(うち8回は書面)の理事会について報告。

2. 総務(事務局)報告 (有森理事)

平成21年8月23日現在、会員数は315名。
 主な活動は会員管理、関連団体・機関(健やか親子21推進会議・看護系学会等社会保険連合(看保連)・看護系学会協議会)への対応と、学会HPの運営と管理の実施。

3. 委員会活動報告(平成20年9月1日~平成21年8月31日)

1) 常任委員会

◆実践開発委員会(福田理事)

(1)学会員における看護上の相談対応
 ・相談対応のPR(ニュースレターおよびHP)。
 ・相談件数は2件。
 ・相談後1年以上経過した相談は、個人情報やプライバシーを保護した上でニュースレターに公開。

(2)不妊症看護認定看護師に関する調査ワーキンググループへの参加
 ・平成20年度に行なわれた日本看護協会委託の不妊症看護認定看護師の活動に関する実態調査の結果分析および報告書作成に伴う支援。

(3)不妊症看護認定看護師の認定後の継続教育を支援していくための枠組み作り
 ・研修支援及びHPのQ&Aに対応する実践開発委員会のメンバー増員を計画。
 ・北海道・東北・関東・東海北陸・関西・中国・四国・九州地区の不妊症看護認定看護師9名を幹事として推薦、理事会で承認。

◆教育推進委員会(森恵美理事)

(1)第6回生殖看護実践セミナーの企画・実施(平成21年8月9日(日))、「生殖医療における倫理を考える」、参加者38人)
 (2)日本生殖看護学会第6回九州地区勉強会の開催(平成21年1月25日(日))、「不妊と肥満」、参加者41人)

◆広報委員会(塩沢理事)

(1)ニュースレター20~23号の企画・編集及び発行
 ・平成20年9月、12月、平成21年3月、6月の4回と臨時号のニュースレターを発行。関連学会及び関連省庁への発送も含め、平成21年6月末現在、約320部発送。

(2)JSFNのHPへのニュースレター掲載

・ニュースレターの目次および発行より1年経過したニュースレターをPDF化し、掲載。

(3)関連学会などでPR活動(学会リーフレットの配布)

・関連学会や研修会等15箇所及び関連大学、認定看護師教育課程、医療機関に学会リーフレットを配布し、PRを実施。

◆編集委員会(村本理事)

(1)学会誌の発行

・日本生殖看護学会誌(*Journal of Japanese of fertility Nursing*)第6巻第1号を発行。

(2)学会誌発行に関する見直し

・印刷頁数が規定枚数を超過した場合の著者負担分、専任査読委員の定数見直しを検討。

(3)データベース掲載の検討

(4)日本不妊看護学会から日本生殖看護学会への名称変更に伴い、ISSNの変更手続き

◆将来検討委員会(長岡理事)

(1)国内外の情報収集と発信

・HP、マスコミ、学会誌、ニュースレター、イベント参加資料等を通じて、国の動向に関する情報、関連学会の動向に関する情報収集。
 ・不妊に関連する国外のトピックスに関して、適宜情報収集。

・研究助成の活性化をはかるために、「生殖看護を学べる大学院の紹介」のニュースレターへの掲載や、当該年度開催予定の国内外の学会に関する情報を掲載。

(2)研究助成の運営・管理

・研究助成金として、2件分、100,000円を積立。
 ・前年度の研究助成に関する問い合わせ対応および管理。
 ・平成21年の研究助成に関して、HP及びニュースレターを通じて公募。1件の申請に対し、研究助成審査会を開催、決定後、諸手続きを実施。
 ・研究助成内規の改正。

2) 特別委員会

◇学会発展構想ワーキンググループ(森理事長)

・3年間の学会の事業・活動について、バランスドスコアシートに基づき、【財務の視点】【顧客の視点】【内部プロセスの視点】【革新と成長の視点】の4点から評価し、次期活動に向けて検討。

◇看保連対応ワーキンググループ(森理事長)

・本会は、看護系学会として、「看護系学会社会保険連合(看保連)」の発足時より加盟し、看護技術評価委員会に所属。
 ・本年度も、総会、看護技術評価委員会に出席しその動向を把握。
 ・平成22年度診療報酬改定に向けて、本会から医療技術評価提案書(保険既収載技術用)「在宅自己注射指導管理料」を提出し、8月27日に厚生労働省保険局のヒアリング。

4. 平成20年研究助成申請結果(森理事長)

・研究助成審査会(平成21年8月10日:書面)での選考結果:申請件数:1件、採択件数:1件
 研究代表者:有森直子氏

採択テーマ:「拳児希望女性の不妊医療機関の受診を考慮する女性のための意思決定支援コンテンツの作成」

なお、選考結果については8月28日開催の理事会での承認を得た旨が報告。

5. 日本生殖看護学会 第3期理事・監事選挙結果(上澤選挙管理委員長)

日本生殖看護学会会則第14条ならびに日本生殖看護学会理事および監事の選出規程により行った第3期理事・監事の選挙結果について報告。
 選挙人数161名、投票数74票、辞退者4名と繰り上げ当選4名を調整し、12名の当選者を確定。

<審議事項>

1. 平成20年度収支決算報告ならびに会計監査報告
(清水会計担当理事、遠藤監事)
清水理事より、平成20年度の一般会計および特別会計の収支決算(案)が報告。
遠藤監事より、平成20年度の収支決算に関して平成20年7月17日に決算書面およびそれに付随する証票に照らして監査を執行した結果、適当であった旨が報告。
*収支決算報告ならびに会計監査に関して、会場の挙手により承認。
2. 平成21年度活動計画(森理事長): p. 3に掲載
3. 平成21年度収支予算中間案(清水理事)
今年度より理事会に出席する理事の交通費全額支給、看護系学会等社会保険連合(看保連)への団

体登録料が会員数の増加による加算が説明。

研究助成の増額について会場より質問、現行5万円では研究遂行に不十分である旨説明。

*平成21年度の活動計画および収支予算案について、会場の拍手により承認された。

4. 次期理事長・副理事長の承認(森理事長)
第13回の理事会において理事長に森明子氏、副理事長に村本淳子氏が選出された旨報告。
*会場の拍手により承認された。

5. 次期・次々期学術集会の開催と学術集会長(森理事長)
平成22年開催の次期学術集会長は徳島大学の岸田佐智氏、平成23年開催の次々期学術集会長は北里大学の上澤悦子氏が選出された旨報告。
*次々期学術集会の開催と学術集会長について、会場からの拍手により承認。



勉強会のご案内

詳細は、学会ホームページをご覧ください。

九州地区勉強会

【日時】平成22年1月31日(日) 14:00~17:00

【場所】国家公務員共済組合連合会浜の町病院 研修講堂 ホームページ <http://hamanomachi.jp/www/>

【テーマ】「生殖医療におけるリスクマネジメント」(仮題)

【内容】1. リスクマネジメントに関する講演
2. グループワーク・発表

【講師】産業医科大学産業保健学部安全衛生マネジメント学講座 近藤 充輔 教授

近藤教授は、製造業の安全管理、リスクアセスメントなどがご専門のかたで、リスクマネジメントのプロフェッショナルです。今回は生殖医療の外側からの視点でリスクマネジメントについてお話しして頂く予定です。質問したい事例などあれば、事前にご連絡ください。

【ねらい】講義やグループワークを通して、各々の施設で直面しているリスクマネジメントの問題を解決できる場になりたいと考えています。

【連絡先】国家公務員共済組合連合会 浜の町病院 金丸 道子
〒810-8539 福岡市中央区舞鶴3-5-27 電話 092-721-0831 (内線2341) FAX 092-714-3262
E-mail: mitiko-k8140011@jcom.home.ne.jp

第2回関西地区勉強会

【日時】平成22年1月31日(日) 13:30~16:30 【場所】IVFなんばクリニック(大阪府大阪市西区)

【テーマ】「卵子提供による体外受精と看護」

【ねらい】めざましく進歩しているART技術を駆使しても、残念ながらお子様に恵まれないご夫婦もいる。その中で近年、卵子提供による体外受精が選択枝として挙げられるようになってきた。卵子提供による治療は倫理的問題が大きく、治療選択の段階から患者様への精神的なケアは欠かせない。また、出産に辿りついてはゴールではなく、生まれてきた児へのケアが新たな問題として生じてくる。またドナーに対する、排卵誘発・採卵でのリスクの問題や精神的なケアも重要なものとなってくる。日本で卵子提供による体外受精を実施している施設はまだ少ないが、卵子提供による体外受精を希望ささるご夫婦と接する機会が増えてくる可能性は十分にある。それを踏まえ、現在実施している施設の現状を知り、各施設での今後の看護を検討する場とする。

【プログラム】13:30~ オリエンテーション・講師紹介

13:40~ 出口美寿恵先生講演(広島HARTクリニック)

14:55~ 事例紹介及び事例検討(グループワーク)、発表

16:15~ まとめ

【参加費】1,000円

【申し込み・お問い合わせ】参加される方の氏名・所属・連絡先(電話番号・E-mail)・職種を明記の上、平成22年1月15日までに下記へFaxまたはE-mailでご連絡ください。

Fax 06-6534-8835 (IVFなんばクリニック看護部直通)

E-mail: fujimoto@ivfnamba.com (IVFなんばクリニック 不妊症看護認定看護師 浅井麻利子)

もし不妊看護の現場で行き詰ったら… 日本生殖看護学会が相談にのります

実際に患者さんと関わっていく中で、「目の前にいるこの患者さんにどのように対応したらいいのだろうか?」「患者さんとゆっくり話が出来る環境を作るためにはどうしたらいいのか?」など、臨床の現場ではシステムや看護観、倫理観などの中で問題やジレンマを感じるがあると思います。

実践開発委員会では、このような様々な問題に直面した時に直接ご相談をお受けし、よりよい不妊看護の方向性を一緒に考えていきたいと考えています。現在、このシステムは日本生殖看護学会のホームページ (<http://jsin.umin.jp/>) からのみのアクセスとなります。

会員の皆様からのご相談をお待ちしています! なお、お寄せいただいたご相談の中には、同じような悩みを持つ会員の皆様の参考になるものが多く含まれています。相談者の同意を頂いた上、相談後1年以上経過した後、相談された方が特定できない形に加工し、『不妊看護に関するQ&A』として、ニューズレターやホームページに順次掲載いたします。どうぞご了承下さい。

◆実践開発委員会で扱う“相談・問題”とは…

1. 事例の相談
2. 生殖医療の知識的なことに関する相談
3. 不妊の方と向き合う時の看護職自身のジレンマに関する相談
4. 看護する場の改善 (相談室開設など) にともなう相談 など



◆相談される場合は…

日本生殖看護学会のホームページにアクセスし、専用の「ご相談内容記入用紙」に相談内容を出来るだけ詳細にご記入後、送信してください。後ほど、お返事を送らせていただきます。

事務局からのお知らせ

1. 日本生殖看護学会へのお問い合わせ、会員に伝えたい情報、ニューズレターに関するご希望・ご意見などがありましたら、FAX: 03-6226-6380 もしくは E-mail: jsin@slcn.ac.jp まで、お気軽にご連絡ください。
2. ニューズレターは郵送ではないので転送はされません。したがって、住所・氏名・所属等の変更がある方は、速やかにご連絡ください。
3. お知り合いの方をぜひ日本生殖看護学会へお誘いください。入会希望の方がいらっしゃいましたら、入会案内をお送りしますので、お名前、ご連絡先をお知らせください。
4. 日本生殖看護学会ホームページ (<http://jsin.umin.jp>) を適宜更新しています。ぜひ新しい情報をご活用ください。

重要 会費の納入をお願いします

平成21年度会費(平成21年9月1日～平成22年8月31日の諸活動に伴う会費です)の納入をお願いいたします。なお、過年度分につきましても、ぜひ納入をお願い申し上げます(該当される会員様には、今回振込票を同封させていただきました。入金確認の時間差もあることから、既にご入金いただいております場合は、悪しからずご容赦ください)。

編集後記

朝夕涼しくなり、めっきり秋めいてまいりましたが、皆様お変わりありませんか? 新型インフルエンザの第2波によって秋の代表的なイベントである運動会も中止となり、残念に思っている子どもさんや家族の方も多いのではないのでしょうか。

広報委員は、この号をもちまして、委員の交代となります。毎号、担当者一同、頭を悩ませながら有益で楽しい情報源となるよう努めて参りましたが、いかがでしたでしょうか? 次号(25号)からの発送は、新しいメンバーで、お届けします。3年間、ありがとうございました。(広報委員:野澤美江子、塩沢直美、林はるみ、安成智子)

日本生殖看護学会

Japanese Society of Fertility Nursing : JSFN

〒104-0044 東京都中央区明石町 10-1

聖路加看護大学内

TEL & FAX 03-6226-6380

E-mail jsin@slcn.ac.jp

ホームページ <http://jsin.umin.jp/>